

2021年6月20日(日)

令和2(2020)年度事業報告 令和2年4月1日～令和3年3月31日

I 事業総括

前年度に続いて、新型コロナウイルスの爆発的な世界的感染拡大により東京2020オリンピックを始め、多くの事業/競技大会、研修会、講習会などが中止・延期・自粛を強いられた。

事業方針を立て、多くの目標を設定したが、その多くは達成できなかった。特に上期はかろうじて2つの事業、前年度事業であった第33回リードジャパンカップが岩手県盛岡市にて無観客にて開催、さらに当初の予定であった福井県での安全登山指導者研修会が定員を絞って開催された程度である。

下期においては、やはりパンデミックが猛威を振るっている中、感染予防対策等に留意して無観客開催、PCR検査の徹底などを行い特にスポーツクライミング大会においては、規模を縮小しながら6つの大会が開催された。登山においては、開催中止、オンライン開催への変更などが余儀なくされた。比較的スムーズだったのは指導委員会の登攀技術研修会程度であった。

コロナ禍により、政府からも在宅勤務の要請が出て、4月から5月にわたり事務局体制もそれになった。年が変わって1月にも緊急事態宣言が発出され、在宅勤務を行った。

同様にスポーツ庁からもJSP0、JOC経由で注意情報が再三にわたり通知され、加盟団体にも配信した。JOC関連からは東京2020オリンピック開催に向けた情報収集のための会議が複数回行われた。

以下においては、方針に対する反省・報告ではなく、実際に発生し、行った代表的な事柄に関して記述する。

登山自粛の呼びかけ、上期においては活動のガイドラインを山岳4団体(JMSCA、労山、日本山岳会、日本山岳ガイド協会)として行った。声明文に対して質問も寄せられた。この内容は英訳してUIAAのホームページにも他の国の連盟と共に掲載してもらった。下期においては、スポーツクライミングの大会を前述の形で開催したこともあり、他の団体と協議しての声明は出さなかった。JMSCA単独でも出していない。

ガバナンスコードに関しては4年ごとの適合性審査の前に1年ごとの自己説明・公表が義務付けられておりHPに掲載した。

我が国の登山及びスポーツクライミングのより一層の改革・発展を期し、「JMSCA中期経営計画2021-2025」を策定して公開した。策定にあたっては、本協会を取り巻くあらゆるステークホルダーに本協会と登山・スポーツクライミングについての思いと考えをヒアリングした。そしてそれぞれの立場・視点からの意見を集約して、本協会の不変の理念・使命・行動指針を明文化し、それぞれの分野の数値目標を立てた。

また、「スポーツ団体ガバナンスコード」原則1(3)では、「財務の健全性確保に関する計画を策定して公表すること」が求められている。本協会の過去8年間の財務実績を分析し、中期的な視点から測定可能な目標を記載した「JMSCAにおける財務の健全性

確保策について」を策定して公開した。

これで OK ということではなく、経営計画は勿論の事、女性理事比率、外部理事比率などの実現も視野に入れての協会の運営が試される。

政府の支援ということで、イベントの再開支援事業(スポーツ庁)や持続化給付金(経産省)が申請して支給された。家賃支援金(経産省)も同様に申請し、3ヶ月分受給した。

組織運営に関しては理事会、総会及び各委員会の会議は Zoom を利用してオンラインで行われ、その方式が定着した。総会・全国理事長会議など全国的な会議もオンラインで開催された。各委員会においてはオンラインを有効活用し、委員を全国に配置しての会議が行われるようになった。緊急案件に関する審議については理事会だけでなく、常務理事会にも権限が与えられるようになった。

IFSC(国際スポーツクライミング連盟)、ISMF(国際山岳スキー連盟)、UIAA(国際山岳連盟)などの国際団体も選挙、総会等国際会議は皆オンラインになっている。UAAA(アジア山岳連盟)の理事会(労山主管)は中止になった。IFSC-ACC(アジアカOUNシル)も同様にオンライン開催で新規役員改選が行われ、本協会からも副会長とルートセッター委員長に当選した。UIAA においては 10 月の改選において理事に立候補したが次点に終わった。

IF 役員獲得のためのロビー活動については、コロナ禍により、委託事業として当初スポーツ庁に申請した回数は消化できずに終わった。

CAS 審問については 8 月 26 日にローザンヌとオンライン形式で行われ、結果は 12 月 11 日に裁定がとどいた。思う通りの結果にはならなかったが、その後 JOC とも協議して連名で 3 月末に報道発表を行った。

次世代アスリート発掘事業であるアスリートパスウェイは JSC の委託事業であるが、一部事故があったものの当初の予定通りに行われた。成果は着実に上がっている。

スポーツクライミングの国際大会派遣については一度も選手を派遣できずに終わった。

2024 年のパリオリンピックにおいて、スポーツクライミングが追加種目として IOC から正式に承認された。種目は、コンバインド(ボルダリング、リード)とスピードの 2 種目となった。

スポーツクライミング・ジャパンツアーは 9 月から始まり、ボルダリングは 6 戦、リード・スピードは各々 3 戦ずつ実施された。

A 選手登録の条件である AD・倫理研修は 7 月からオンライン形式で始まり、21 回開催した。しかし、希望者が多く、殆どは HP に発表後すぐに満杯になる状態が続いた。今後はスポーツクライミングの選手だけでなく、山岳スキーの選手も対象になる。

前年度できなかった UIAA 認定資格試験及び夏山リーダー制度に関しては国内でどうするかについて話し合いの場が設けられ、同時に複数の岳連(協会)で研修会が開催されている。

創立 60 周年記念出版の「UIAA 夏季アルパインハンドブック」は、6 月に刊行した。出版は労山と共同で行い、印刷部数は JMCSA が 1,000 部、労山が 2,000 部と合計 3,000 部。JMCSA 販売部数は今のところ約 800 部出ており、好評を博している。3 月には創立 60 周年記念誌が出版され、これも好評である。

記念祝賀会は令和 2（2020）年度では延期になったが、令和 3（2021）年度に開催することで考えている。

「ストップ・ザ 1000！！」恒常的な山岳遭難件数、死者行方不明者数の減少のための動画配信については十分に行えず、ライセンス（音楽著作権）を延長して再度トライしている。しかし、コロナ禍により、登山を行う人も減っており、期待したほどの効果があがっておらず、引き続き宣伝している。

各岳連に委託の少年少女登山教室事業において申請された件数は 3 月末現在 11 件にとどまっている。これは明らかにコロナ禍の影響である。

山小屋支援エイド基金にも団体として賛同・協力した。アスリート委員会はコロナ感染症対策に従事している方々のために「Climb for Tomorrow 2020 プロジェクト」を立ち上げ、10 月 30 日から 12 月 29 日の間に 119 名から 2,054,000 円の支援金が集まり、リターン制作費・送料・手数料を除いた額を WHO に寄付した。

ホームページに関しては相変わらず評判が良くない。それなりの費用をかけていないせいもあるが協会の顔であり、見過ごしにはできない。次年度改善の方向に進んでおり、広報委員会を中心に力を入れる。

アイスクライミング競技に関しては、選手登録の事など例年になく議論が交わされたが、最終的には例年通りの対応になった。ただ、アイスクライミング検討委員会(仮称)が立ち上がり将来に向けての準備が整った。UIAA においては、オリンピックは無理でもユースオリンピックに、と IOC に攻勢をかけているが、時間がかかりそうである。

ISMF も競技会開催がなかなかできず財政難に陥っており、とうとう会費の値上げに踏み切った。

埼玉、千葉、京都、静岡、岡山において岳連(協会)が一般社団法人化された。名称も「山岳・スポーツクライミング連盟(協会)」と改称する県が増えてきた。現在 19 県となった。

事務局職員の労働に関して 36 協定届を新宿労働基準監督署に提出した。

JSC に申請している令和 2 年度助成金のうち、スポーツ振興くじ助成金は比較的早めに交付決定通知が届いたがスポーツ振興基金は 3 月になって届いた。JOC の場合は当初の予定通り消化できず一部返却した。

登山普及情報交換会はオンラインで行った。全日本登山大会はコロナ禍で中止になっ

たが、その在り方が問われており、検討している。レスキュー講習会は2回ともコロナ禍で中止になった。

東京 2020 オリンピック実施を前提に令和 3 (2021) 年度事業計画と予算委員会を中心にして予算編成を2月末完成、3月初めの理事会に提出し承認を得た。

JSC に対しての令和 3 年度補助金申請は、1 月末(昨年度は 1 月 15 日)に申請し、交付決定通知は比較的早めに届いた(4月中旬)。

都道府県山岳(・SC)連盟(協会)での競技会・研修会・講習会参加者向け国内旅行傷害保険包括契約について準備を進めた。一般的な保険契約では付保できない屋外人工壁のクライミング競技会等に対応するため、本協会がとりまとめて包括契約を結ぶことにした。各岳連が主催又は主管する競技会・イベント等を対象として、参加者の死亡・傷害を補償する内容である。

次年度は、必ずしも明るい見通しは立っていない。状況に合わせ粛々と事業を実施していくことになるが、明るい材料を作っていかななくてはならない。

東京 2020 オリンピックは、スポーツクライミングとしては初めてのオリンピックである。成功を祈念すると共に協会も前進していきたい。

II. 組織・会員状況

「スポーツ団体のガバナンスコード」に則り、公益法人としてガバナンスの強化及びコンプライアンスの徹底を図るために、諸規程(※1)の整備・強化を図り、順次HPにアップして公開した。

会員の状況は以下の通りである。

- | | |
|-----------|-----------------------|
| ①正会員 | 64名(加盟団体48名、学識経験者16名) |
| ②賛助会員(団体) | 9社(退会1社) |
| ③賛助会員(個人) | 107名(新規加入4名、退会・逝去8名) |

III. 財務管理

当期経常増減額は、公益目的事業会計で40,112千円、法人会計で13,611千円の合計53,723千円の黒字となった。コロナ禍で殆どの事業が実施できず、経費支出が大幅に減少したことによる。

本協会では、令和3年度以降、協賛金及び補助金収入の減少が見込まれること、今後のIFSC国際競技大会の開催に備えての資金の積立が必要なこと、などを鑑み、特定費用準備資金の規程を制定し、年度末の収支決算で特定費用準備資金を新規保有することにした。

スポーツクライミング競技大会を開催する上で、将来の収支変動に備えるための「財政基盤確保資金」。将来のスポーツクライミング国際競技大会開催に備えるための「国際大会開催資金」。この2つの特定資産をそれぞれ3,000万円ずつ積み立てた。

一方、IFSC世界選手権八王子大会2019の赤字による運転資金の確保のために融資を受けた長期借入金と短期借入金については、先ず、未収入計上していたスポーツ振興くじ助成金等の振込を得て、2020年6月に短期借入金を完済。次いで前年度に理事会承認を受けながら実施していなかった国民スポーツ登山振興基金の一部取り崩し(1,000

万円) と篤志家からの寄附金(400万円)により、2020年10月に長期借入金を完済した。

また、財政再建諮問委員会によって、「予算執行に関する運用規律」が制定され、2020年5月の施行後は、それに則って各事業の予算執行にあたった。

(※1) 令和2(2020)年度に制定及び改正した諸規程

- ・ 会員規程第5条第4項(令和2年5月14日一部改正)
- ・ 予算執行管理に関する運用規律(令和2年5月14日施行)
- ・ 常務理事会規程(令和2年6月10日施行)
- ・ 組織管理運営規程第6条、第7条(令和2年6月10日一部改正)
- ・ 理事会規程第10条第2項(令和2年6月10日一部改正)
- ・ 組織管理運営規程第3条、第4条(令和2年7月15日一部改正)
- ・ スポーツクライミング日本代表チームに関わる規程(令和2年9月10日一部改正)
- ・ 予算管理規程第8, 9, 15, 19条(令和2年10月8日一部改正)
- ・ 予算執行管理に関する運用規律(令和2年11月12日一部改正)
- ・ 登録選手規程細則第2条(令和2年11月12日一部改正)
- ・ スピード種目に関する規程第3条(令和3年2月10日一部改正)
- ・ 国民体育大会ボルダリング競技規定第10条(令和3年2月10日一部改正)
- ・ 特定費用準備資金等取扱規程(令和3年3月11日施行)
- ・ 国民体育大会スポーツクライミング競技開催基準要項細則(令和3年3月11日一部改正)
- ・ 国民体育大会スポーツクライミング競技全種目についての共通規定(令和3年3月11日一部改正)
- ・ スポーツクライミング競技規則(令和3年3月11日一部改正)

IV. 事業内容

2020年4月1日～2021年3月31日までの事業について記す。

網掛けは JSC 補助事業。

1. 安全登山普及事業

(1) 青少年育成事業(普及委員会)

ア) 高体連登山専門部関連

①第 64 回全国高等学校登山大会の開催 令和 2 (2020) 年度群馬大会

コロナ禍により開催中止となった。

②第 11 回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催

12月26日(土)～27日(日) 埼玉県加須市市民体育館

コロナ禍により開催中止となった。

イ) ジュニア登山教室

①「青少年登山教室」の開催(委託実施)

11 団体実施。予定を立てたがコロナ禍により中止を余儀なくされた団体もあった。

②「ジュニア普及情報交換会」開催

2021年2月13日(土) オンライン(zoom)開催

28 岳連の理事長または普及委員長、JMSCA 理事より 11 名の出席があり 41 名での会議と

なった。テーマは「全日本登山大会の改革について」であった。

③「みんな集まれ！ジュニア登山教室」

各ブロックに委託することを検討、開催せず。

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業(普及、総務委員会)

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

・2020 年度実施各競技大会入賞者(1 位～3 位) 表彰

・第 59 回全日本登山大会功労者特別表彰(10 回以上の参加者) 及び開催地関係者への感謝状(団体) 贈呈 (第 59 回全日本登山大会中止により無し)

・2020 年度永年参与感謝状贈呈

・特別功労者表彰 創立 60 周年記念式典は中止したが 99 名の方が表彰された。

・第 10 回日本山岳グランプリの公募と顕彰

独立大学法人鹿屋体育大学スポーツ科学系教授 山本正嘉氏が顕彰された。

- ・2020年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦
日本スポーツ賞が中止となり、その他の各スポーツ賞の候補者推薦も無し。
- ・2020年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦
3名 (1) 福井県：榊田靖憲氏 (2) 岐阜県：水谷嘉宏氏 (3) 島根県：米倉得雄氏

- ・2020年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦
菅野三知博、増子麗子両氏を推薦。
 - ・2022年度叙勲及び褒章候補者の推薦
推薦無し
- エ) 2020年度海外登山隊奨励金の公募と選考
令和2(2020)年度上期公募の申請は無し。
令和2(2020)年度下期は以下の隊である。

※コロナ禍により2隊とも中止となった。

■ Gasherbrum VI 遠征隊

期 間：2021年6月15日～7月31日

隊 員：高柳 傑(32)、鈴木雄大(26)、石川貴大(31)

山 域：パキスタン・カラコラム ガッシャーブルムVI峰 (7,004m)

■ Giri Giri Boys K7 Expedition 2021

期 間：2021年7月15日～8月23日

隊 員：横山勝丘(42)、鳴海玄希(38)

山 域：パキスタン・カラコラム K7中央峰 (6,858m)

- オ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化講演会等の後援
後援件数10件

- カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る
コロナ禍でコラボすることができなかった。

(3) 安全登山の啓発事業(普及、遭対、国際の各委員会)

普及委員会

- ア) 安全登山指導者研修会(国立登山研修所他共催)の実施

①東部地区(福井県) 9月19日(土)～21日(祝月)

宿泊「福井県立奥越青少年自然の家」、経ヶ岳(1,625m)周辺

一般参加者28名、講師・スタッフ20名参加

②西部地区(香川県) 11月21日(土)～23日(祝月)

宿泊「香川県立五色台少年自然センター」、五色台周辺

11府県25名参加で開催された。

- イ) 安全登山事業(国立登山研修所と共催)

①高等学校等登山指導者夏山講習会

7月10日(金)～12日(日) 国立登山研修所及び室堂周辺
コロナ禍により中止となった。

②上級登山リスクマネジメント指導者研修会

2021年1月30日(土)～31日(日)、日本スポーツ振興センター関連施設
コロナ禍により中止となった。

③安全登山サテライトセミナー

宮城会場：6月20日(土)～21日(日) (200人規模の施設を想定)
コロナ禍により中止となった。

兵庫会場：10月31日(土)～11月1日(日)
兵庫県立「のじぎく」会館第ホール
113名参加

東京会場：12月19日(土)～20日(日) (300人規模の施設を想定)
オンライン(zoom)にて開催 404名参加

④積雪期登山基礎講習会

2021年2月12日(金)～14日(日)、国立登山研修所及び周辺山域
コロナ禍により中止となった。

ウ) 創立60周年記念・第59回全日本登山大会の開催

2021年2月20日(土)～22日(日) 千葉県
コロナ禍により中止となった。

遭対委員会

ア) 山岳レスキュー講習会

①西部地区(富山県・国立登山研修所) 9月11日(金)～13日(日)
コロナ禍により中止となった。

②東部地区(群馬県・土合山の家) 1月29日(金)～31日(日)
コロナ禍により中止となった。

イ) 研修及び研究会

① 遭対常任研修会 10月17日(土)～18日(日)
長野県山岳総合センター 17名参加

② 遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議 6月27日(土)～28日(日)
コロナ禍により中止となった。

ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

- ・減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000」の啓発活動
- ・アニメ動画「そうよ そうなの 遭難よ！」の拡散

コロナ禍で計画した拡散ができなかったため音楽契約期間を延長して拡散す

る予定

エ) 令和 2 (2020) 年度全国山岳遭難対策協議会の共催 (スポーツ庁他)
コロナ禍により中止となった。

オ) 山岳保険加入者の事故調査 (報告書作成/HP 掲載)

カ) 遭難事故の調査研究

- ・ 遭難事故に関する調査研究 (委託事業)
- ・ 遭難事故の科学的分析

キ) 遭難事故科学的研究・他支援

- ・ IMSAR 研究助成支援 (継続)
- ・ 内閣府「噴火時等の避難計画手引き作成委員会」への協力

「噴火時等の具体的で実践的な避難計画策定の手引き」及び「集客施設等における噴火

時等の避難確保計画作成の手引き」の改定。

国際・アルパインクライミング委員会

ア) 国際・アルパインクライミング委員全体会議兼第 59 回海外登山技術研究会
6 月 27 日 (土) ~ 28 日 (日) 福井県

コロナ禍により中止となった。

イ) 海外登山懇談会

11 月 国立オリンピック記念青少年総合センター

コロナ禍により中止となった。

ウ) 共催事業

ウィンター・クライマーズ・ミーティング (国内) の共催

2021 年 3 月 27 日 AM2:45~PM11:15

9 名の参加で滝谷 4 ルート (新穂高往復) にて開催された。

(4) 登山指導者育成事業 (指導委員会)

ア) 指導員研修会

① 氷雪技術研修会 (A 級主任検定員・コーチ 2 養成講習会)

5 月 9 日 (土) ~ 10 日 (日) 富士山

コロナ禍により中止となった。

② 全国指導委員長会議

6 月 6 日 (土) ~ 7 日 (日) 東京海員会館

コロナ禍により中止となった。

③ 登攀技術研修会 (A 級主任検定員・コーチ 2 養成講習会)

11 月 14 日 (土) ~ 15 日 (日) (一社) 広島県山岳・SC 連盟 福山

研修 14 名、A 級主任検定 3 名、コーチ 2 養成講習 4 名、講師 4 名、

広島県スタッフ7名の合計32名での開催となった。

④氷雪技術研修会（A級主任検定員・コーチ2養成講習会）

2021年2月13日（土）～14日（日） 鳥取・大山

コロナ禍により中止となった。

⑤コーチ1,2、主任検定員の養成（11月の登攀技術研修会で実施）

⑥指導・遭対委合同研修会 年3回程度（上期は無し）

イ) 主任検定員養成講習会

・山岳主任検定員養成講習会（11月の登攀技術研修会で実施）

ウ) 委員会等

①夏山リーダー講習会の実施（コロナ禍で開催が適わなかった。）

②指導常任委員会 毎月第1月曜日（全てオンライン会議で実施）

エ) 国立登山研修所事業への協力

国立登山研修所専門調査委員、「登山研修」編集委員、スタンダードマニュアル作成小委員

会等に協力。

2. スポーツライミング事業

(1) 競技会運営事業(競技委員会)

公認大会・予選会実施の推進

ア) 競技会・研修会の開催

※印については、新型コロナウイルス感染拡大により2019年度大会を延期(予定)

したも

の。

①FISE WORLD SERIES Hiroshima 2020(エクストリームスポーツ国際フェスティバル)

4月3日(金)～5日(日) 広島市・旧市民球場跡地

コロナ禍により中止となった。

※②スポーツライミング第33回リードジャパンカップ

8月9日(日)～11日(火) 岩手運動公園スポーツライミング競技場

無観客にて開催された。 結果は以下のとおりである。

男子

1位 西田秀聖

2位 吉田智音

3位 田中修太

女子

1位 森秋彩

2位 野口啓代

3位 柿崎未羽

※③スポーツクライミング第8回リードユース日本選手権南砺大会

10月10日(土)～12日(月) 富山県南砺市・桜ヶ池クライミングセンター
対象 ジュニア、ユースA,B,C 無観客にて開催

10/10 ユースA男子、ユースA女子、ユースB男子、ユースC女子

10/11 ジュニア男子、ユースB女子、ユースC男子、ジュニア女子

参加 男子126人 女子129人 合計255人

④「Top of the Top 2020」—2020年日本代表選手の頂上決戦—

10月31日(土)～11月1日(日) 西条市・石鎚クライミングパーク SAIJO
大会の様子は、YouTubeチャンネル：JMCSA CompetitionTVで放映された。

また、アスリート委員会では同タイミングで社会貢献活動として「Climb for Tomorrow

2020(新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト)」を立ち上げ、クラウドファンデ

ィングで募金し、WHOに寄附した。

女子ボルダリング：1位中村真緒、2位野口啓代、3位伊藤ふたば

女子リード：1位野口啓代、2位平野夏海、3位久米乃ノ華

男子ボルダリング：1位高田知堯、2位檜崎智亜、3位緒方良行

男子リード：1位高田知堯、2位檜崎明智、3位樋口純裕

⑤スポーツクライミング第6回ボルダリングユース日本選手権葛飾大会

コロナ禍により会場を葛飾区に移して11/21～11/23に開催された。

会場 葛飾区東金運動場スポーツクライミングセンター

参加選手 男子ユースC47人、B43人、A45人、ジュニア15人

女子ユースC50人、B26人、A35人、ジュニア11人、 合計 男子150人、女子122人

⑥スポーツクライミング第3回コンバインドジャパンカップ

コロナ禍により12/26～27に延期、西条市で開催された。

会場 西条市石鎚クライミングパーク SAIJO

無観客 ライブ放送 男子10人、女子16人

結果は以下のとおりである。

男子

1位 藤井快

2位 樋口純裕

3位 百合草碧皇

女子

1位 野中生萌

2位 倉菜々子

3位 谷井菜月

⑦スポーツライミング第16回ボルダリングジャパンカップ

2021年1月30日(土)～31日(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内

球技場

無観客 ライブ放送 男子52人、女子40人

結果は以下のとおりである。

男子

1位 藤井快

2位 檜崎智亜

3位 緒方良行

女子

1位 森秋彩

2位 野中生萌

3位 伊藤ふたば

⑧スポーツライミング第3回スピードジャパンカップ(SJC2021)／第1回スピードユース選

手権(SYC2021)

2021年3月6日(土)京都・亀岡市・「サンガスタジアム by KYOCERA グラビティリサー

チ」 無観客

クリッピング：TV6番組、Web33ページNHK サタデースポーツ、NTV Going!

TBS S1、TX スポーツウォッチャー EX サンデーLIVE、 EX GET SPORTS

SJCの結果は以下の通り

*ジュニア、ユースA 男子18、女子10が参加した。

1位 檜崎智亜

2位 竹田創

3位 安田潤

女子

1位 野口啓代

2位 野中生萌

3位 倉菜々子

SYC の参加は以下の通り

ジュニア 男子 9 女子 3 ユースA 男子11 女子 9 ユースB 男子10
女子 6

⑨スポーツクライミング第34回 リードジャパンカップ 2021

2021年3月26日(金)～28日(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館
28日のみ有観客で開催 結果は以下の通り

男子

1位 吉田智音

2位 樋口純裕

3位 藤井快

女子

1位 森秋彩

2位 野口啓代

3位 中川 瑠

⑩スポーツクライミング第23回 JOC ジュニアオリンピックカップ(ユースC)

9月19日(土)～20日(日)

コロナ禍により中止となった。

⑪第11回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会(「青少年育成事業」
の項参照)

⑫スポーツクライミング第9回リードユース日本選手権印西大会 2021

2021年3月27日(土)～28日(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館
令和3年度事業に移行。

(2) 国体スポーツクライミング競技の主管(国体委員会)

五輪競技種目化に沿った国体スポーツクライミング競技の検討

ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

① 4月18日(土)～19日(日) 第75回鹿児島国体第1回基準会議、鹿児島県
南さつま市

② 6月12日(金)～14日(日) 第75回鹿児島国体第2回基準会議、鹿児島県
南さつま市

③ 6月13日(土)～14日(日) 第75回鹿児島国体リハーサル大会(第7回日本学
生スポー

ツクライミング(L/B)対抗選手権大会) 鹿児島県南さつま市

④ 9月6日(日) 組合せ抽選会 場所、JSOS ビル

⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催（委託実施）

⑥10月4日(日)～6日(火) 第75回鹿児島国体スポーツクライミング競技、
鹿児島県

南さつま市

上記国体関連イベントはコロナ禍により中止となったが、鹿児島国体は2023年に開催。それ以降の大会は順延となる。

⑦第75回鹿児島国体以降の開催県への指導

(3) 強化事業(強化委員会)

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

①代表(S. A. B)選手の選考

ウ) 代表選手の派遣

①IFSCクライミングWC

4月～11月 世界各地

コロナ禍によりWCは殆どが中止。ブリアンソン大会には、日本不参加。

②第32回夏季オリンピック大会

8月4日(火)～7日(金) 東京・青海アーバンスポーツパーク

2021年に延期。

③IFSC世界ユース選手権

8月23日(日)～8月31日(月) ロシア

コロナ禍により開催中止

④IFSCアジア選手権

12月10日(木)～13日(日) 中国・アモイ

コロナ禍により開催中止

⑤IFSCアジアユース選手権

11月19日(木)～22日 中国・重慶

コロナ禍により開催中止

エ) 代表選手強化合宿(海外・国内)

コロナ禍で選手派遣が出来ない分、下期は回数を増加した。

オ) ユース選手・指導者講習会の開催

カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者への
スポーツ障害予防啓発(医科学支援)

キ) パリ2024(複合種目(リード、ボルダリング)、スピード)に向けた取り組み

ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み

ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

(4) 審判・ルートセッター事業(技術委員会)

各種競技会・国体スポーツクライミング競技への支援協力 ルートセッター派遣、ブロッ

ク別研修会講師派遣

ア) 審判・セッター会議の開催(2月)全国ルートセッター研修会

・第1回:日程 10月13日(火)~15日(木)開催

・第2回:開催せず

イ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会

(5) SC コーチ養成講習会(新設予定 SC 指導委員会)

① SC コーチ 1,2 養成講習会 年2回

② SC コーチ 3 養成講習会(補講) 関東地区 年1回

③ SC 主任検定員

④ SC コーチ養成用教材作成(医学と法律)

(6) ジャパンツアー2020 (SC 普及委員会)

ア) ボルダリング

第1回 杉並区 B-PUMP 荻窪 9月12日(土)

第2回 名古屋市 Play Mountain 名古屋 IC 9月26日(土)

第3回 岩手県盛岡市 県営運動公園 10月24日(土),25日(日)

第4回 滋賀県大津市 ロックメイト大津 11月14日(土)

第5回 福岡県北九州市 OD小倉 11月28日(土)

第6回 江東区 Fish and Bird 12月5日(土)

イ) リード

第1回 鳥取県倉吉市 倉吉スポーツクライミングセンター 10月3日(土)、4日(日)

第2回 愛媛県西条市 石鎚クライミングパーク SAIJO 11月7日(土)、8日(日)

第3回 埼玉県川口市 PUMP1 川口店 12月12日(土)

ウ) スピード

第1回 鳥取県倉吉市 倉吉スポーツクライミングセンター 10月3日(土)、4日(日)

第2回 岩手県盛岡市 県営運動公園 10月24日(土),25日(日)

第3回 愛媛県西条市 石鎚クライミングパーク SAIJO 11月7日(土)、8日(日)

(7) スポーツクライミング医・科学事業(SC 医科学委員会)

ア) 各種大会における救護スタッフ派遣および救護活動

イ) 代表選手メディカルチェック事業

・選手のBMIチェックを実施

ウ) 外傷・障害予防のための啓発事業

① 登録選手向け医科学講習会（選手スタッフ合同ミーティング）2回

② クライミング医科学講習会

エ) 調査、研究事業

① 障害実態調査

② 学会活動（日本臨床スポーツ医学会ほか）

オ) JSP0 公認スポーツドクター、アスレチックトレーナー養成支援（受講希望者の推薦及び 代表者協議会への出席）

(8) ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

① ドーピング検査実施（JADAに委託）

② ドーピング防止講習会開催

③ TUE（治療目的使用に関わる除外措置）申請の支援

③ ADAMS（アンチ・ドーピング管理システム）登録選手への管理支援

(9) 倫理研修会事業(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会)

AD・倫理研修会の開催

コロナ禍により開始は遅れたが順次開催している。

7/26、9/13、9/27、10/17、10/18、10/31、11/1、11/7、11/15、11/22、11/29

12/5、12/12、1/10、1/16、1/23、2/6、2/20、2/27、3/20、3/27 開催

(10) ユニバーシアード関連(全日本大学スポーツクライミング協会)

JOC 主催委員会等出席

3. 登山関連競技会運営事業

(1) 山岳スキー、スカイラン／トレラン普及・振興

① 第13回日本山岳スキー競技日本選手権大会（山岳スキー委員会）

4月4日(土)～5日(日) 小谷村柵池高原スキー場

コロナ禍で中止

② ISMF(国際山岳スキー連盟)アジア選手権派遣支援

③ (一財)日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、(一社)日本スカイ

ランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

4. 登山研究調査事業

(1) 国際交流事業(国際・アルパインクライミング委員会)

ア) 国際交流

- ① 創立 60 周年記念事業国際青少年自然環境体験キャンプ (HAT-J 共催)
多摩地区・高尾山他 7/28 (火) ~8/1 (土)

コロナ禍により開催中止

- ② 来日する外国登山代表団との交流

イ) 派遣他

- ① 創立 60 周年記念事業「クーンブ山群絶景トレッキング」
ネパール・コンデリゾート 10/16 (金) ~10/28 (水) 13 日間

コロナ禍により催行中止

- ② BMC International Climbers Meet への派遣 (夏)

英国 ノース・ウエールズ 開催せず

- ③ UIAA アイスクライミング選手権派遣支援

コロナ禍により派遣せず

(2) 医・科学支援事業(登山部医科学委員会)

ア) UIAA MedCom

- ① UIAA MedCom Meeting への出席

イ) 支援している医科学的諸事業

- ① JSMM 国際認定山岳医研修会
- ② NPO 富士山測候所を活用する会
- ③ JSMM 登山者検診ネットワーク
- ④ 夏山リーダー制度、インターハイ支援

ウ) 調査研究事業

- ① 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

5. 自然保護研究調査事業

(1) 山岳環境保全事業(自然保護委員会)

ア) 研修及び研究会

- ① 令和 2 年度自然保護委員総会 (第 44 回山岳自然の集い)
2020 年 11 月中旬 国立オリンピック記念青少年総合センター

コロナ禍により中止となった

②山岳自然保護環境研究会パート1

コロナ禍により中止となった。

③山岳自然保護環境研究会パート2

コロナ禍により中止となった。

④第11回自然保護指導員研修会

2021年1月 国立オリンピック記念青少年総合センター

コロナ禍により開催は中止、

イ) 自然保護の啓発

①自然保護指導員制度の推進

②自然保護広報資料の出版

③全国環境月間(6月)の実施

④環境省・自然公園指導員制度への協力

・自然公園指導員の推薦

⑤山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

・山岳団体自然環境連絡会への参加

・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進

・各種環境保護事業の後援と派遣

⑥日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

⑦全国山岳自然保護関係活動の集約とHP広報

6. 共益事業

(1) 広報等

ア) 『登山月報』毎月15日定期発行 第613号(4月号)～第624号(3月号)

イ) HPのタイムリーな更新作成 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

①英文コーナーの新設は予定より遅れている。

②HPのコンテンツについては下期に改善を進め、完成は次年度。

ウ) 創立60周年記念誌の発行 2021年3月に発行した。

エ) 創立60周年記念事業「UIAAハンドブック」翻訳本 6月に刊行した。

(2) 会議等

ア) 総会 2020年8月2日(日)web会議にて開催

イ) 理事会 原則として毎月第二木曜日、2021年1月は第三金曜日

5月以降はWeb会議にて開催

ウ) 全国理事長会議 2021年2月14日(日) Webにて開催

エ) 全国参与会 2021年2月20日(土) 千葉県 (第59回全日本登山大会開

催時)

コロナ禍により中止

- オ) 常務理事会 原則として毎月第二木曜日に実施。
理事会と同様に5月以降はWeb会議にて開催
- カ) 委員長会議（登山部会議、SC部会議として毎月開催）
- キ) 常任委員会（全ての委員会がオンラインでの開催となった。）
- ク) 事務局会議（随時）
- ケ) 創立60周年記念式典・祝賀会 2021年1月16日（土）アルカディア市ヶ谷

コロナ禍により延期

- コ) 山岳4団体懇談会

コロナ禍により中止となった。

- サ) (一財)全国山の日協議会（随時）
 - ・評議員会・理事会・運営委員会への出席

上期は全て書面決議

- ・第5回「山の日」記念全国大会 8月11日（火）大分県 くじゅう地域（九重町、竹田市）

コロナ禍により中止となった。第6回「山の日」記念全国大会（山形県）も順

延。

- シ) 国際会議

- ① 国際山岳連盟 (UIAA) 理事会 出席せず
- ② 国際山岳連盟 (UIAA) 総会 10月23日(金)～24日(土)
コロナ禍によりオンライン会議となった。
- ③ アジア山岳連盟 (UAAA) 理事会 6月19日(金) 東京 (労山主管)
コロナ禍により中止となった。
- ④ アジア山岳連盟 (UAAA) 総会 10月 香港予定
コロナ禍により中止となった。
- ⑤ 国際山岳連盟登山部会 4月18日(土)～19日(日)、カナダ
コロナ禍により中止となった。
- ⑥ 国際スポーツクライミング連盟 (IFSC) 総会
11/13～14にオンライン総会開催
- ⑦ 国際山岳スキー連盟 (ISMF) 総会 6月
コロナ禍により9月にオンラインにて開催。

(3) 総務等

- ア) 令和2年度役員・会員・賛助会員名簿の作成
- イ) 議事録の整備
- ウ) 山岳保険のPR (『岳人』、登山月報、ヤマテン、ヤマレコ、

- タウンニュース、高体連部報、HAT-J 機関誌他への広告出稿)
- エ) 組織運営の円滑化のため、事務局体制の強化を行う。
- ・10月、11月にインターンシップ2名を受入れ。
 - ・新規採用の検討 4月、6月、2月、合計3名採用
- オ) JMSCA 会員のデータベース化の整備
- カ) NF としてのスポーツ団体ガバナンスコードに準拠し中長期計画の検討
中期経営計画(2021~2025年)とJMSCAにおける財務の健全性確保策を策定し、
ガバナンスコードの自己説明とともにHPに掲出した。

(4) 財政等

ア) 財源の確保

① JMSCA” ITADAKI” 会員の加入促進

コロナ禍により入会者は263名(「頂」会員114名、「登」会員149名)に留まった。

② 山岳共済会々員の加入促進(コロナ禍で大幅減少。)

③ 賛助会員(個人・団体)の加入促進

団体：1社退会 合計9社

個人：5名承認、4名加入、8名逝去・退会 合計107名

④ ロイヤリティー収入源の具体策を検討

・スポーツクライミングの安全確保を前提とした施設・用具等の安全基準の検討

イ) 外部資金の導入

① グローバル・パートナーの獲得

② 2021年シーズン競技関係の協賛企業の獲得

③ 創立60周年記念事業募金活動

募金総額は、3,179,000円 令和2年度1,131,000円

ウ) 理事会において毎月の収支報告

エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理

オ) 山岳共済会(事務センター)の運営管理・山岳共済会会計

カ) 監事監査 期末監査：7月8日(水)、9日(木)、コロナ禍により遅れて開催。

中間監査：10月30日

キ) 中間決算と補正予算について 11月12日

ク) 令和3(2021)年度予算案の作成 2021年2月

2021年3月11日の理事会で令和3年度予算が承認された。

以上